

東南置賜地区にとって望ましい高校再編整備について

東南置賜地区の県立高校の再編整備に係る検討委員会の「報告書」【概要版】

平成30年7月

本検討委員会は、今後も少子化が急激に進行する中、東南置賜地区の高校教育の充実を図るため、県教育委員会教育長からの依頼を受け、東南置賜地区にとって望ましい高校再編整備について、さまざまな視点から検討を重ねてきました。このたび、中間報告書に係る地域説明会、地域や県民の皆様からの意見募集（パブリック・コメント）等を実施し、いただいた意見も参考にしながら議論を深め、「報告書」としてとりまとめました。今後、「報告書」の趣旨を踏まえ、これから高校で学ぶ子ども達にとって望ましい教育環境が整備されることを期待します。

◇ 検討委員会の検討経過

平成29年

5月 生徒・保護者へのアンケート
5月 地域説明会（2市2町）、会場でのアンケート
5月～8月 地域関係者・教育関係者等からの意見聴取

<検討委員会>

平成30年

7月 第1回 これからの東南置賜地区の高校教育に求められるもの
9月 第2回 東南置賜地区の実情を踏まえた高校教育の条件整備
11月 第3回 東南置賜地区の高校再編整備の方向性
1月 第4回 中間報告書（案）について

2月 地域説明会（2市2町）、会場でのアンケート
2月～3月 パブリック・コメント

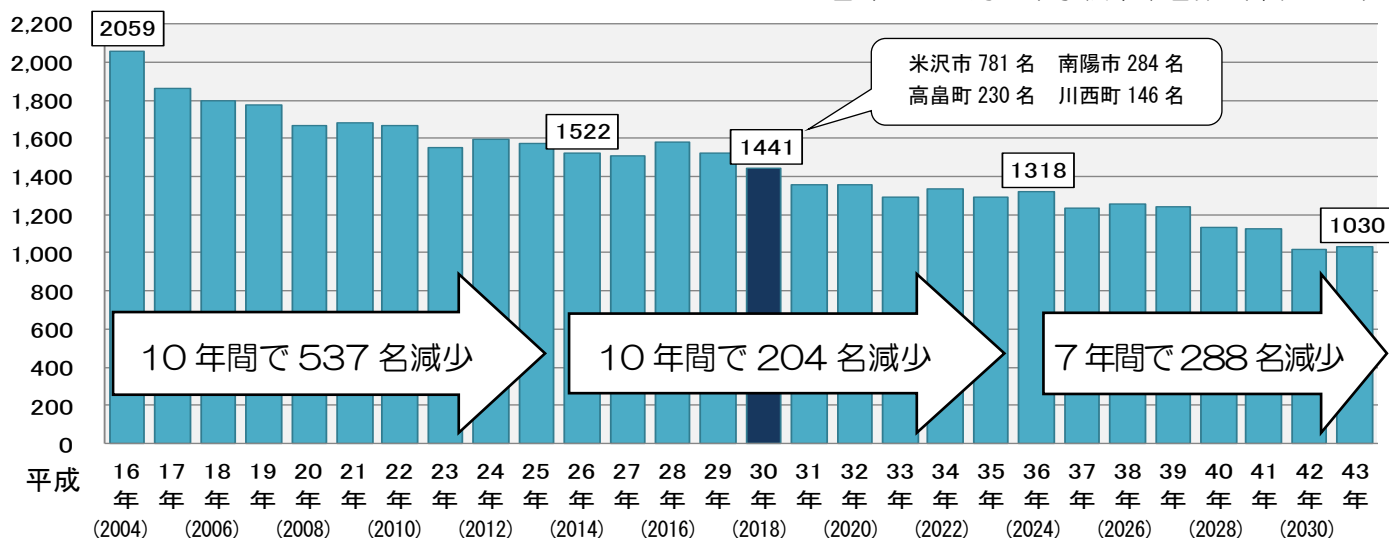
<検討委員会>

5月 第5回 報告書（案）について

7月 「報告書」の提出

東南置賜地区の中学校卒業（予定）者数の推移

各年とも3月の中学校卒業生数（単位：人）



東南置賜地区の県立高校の現状と課題

(1) 県立高校の設置状況と中学校からの進路状況

多様な学科が設置され、地区内の中卒者の8割以上が地区内の高校等に進学するが、他地区からの流入が多い学校もある。置賜地区全体を見渡し、今後も多様な選択肢をどう提供していくかが課題。

(2) 少子化による中学校卒業生数の減少への対応

今後13年間で中学校卒業生数が約410名減少する見込み。高校教育の質的水準の維持・向上、人材の育成、地域の期待など、様々な角度から検討し、長期的展望に立った高校再編整備が必要。

(3) 生徒や地域産業・社会のニーズへの対応

普通科志向という中学生の希望状況を踏まえる一方、高校教育が担う工業、農業、商業等の地域産業の人材育成という役割も考慮しながら、バランス良く入学定員を設定することが必要。

(4) 高校の立地と生徒の通学事情

郊外への高校立地や広い地域への高校の分散により、通学の便の課題がある。地理的条件、高校立地、生徒の通学手段や通学経費、送迎の保護者負担、地域の要望等の要素についての考慮が必要。

(5) 小規模校の役割と課題

地域に根差す小規模校の存続を求める意見が多数。集団の中で豊かな人間関係を築く機会の提供など教育環境の改善の方法や将来の在り方についての慎重な検討が必要。

(6) 定時制の役割の変化

勤労青少年の学習の場というニーズの低下とともに入学者数が減少。夜間は、通学に公共交通機関を利用しにくい等の課題もある。学び直しの場としてのニーズ等に対応した在り方の検討が必要。

(7) 私立高校との関係

私立高校は建学の精神に基づき、多様なニーズに応えるため、独自性を発揮して多様な教育を実践。米沢市の2校の私立高校に配慮しながら、県立高校の入学定員の設定、学校配置の検討が必要。

東南置賜地区各校の設置学科と学級数（入学定員）＜平成30年度＞

米沢興譲館
普通科
3学級
探究科
2学級

米沢東
普通科
4学級

米沢工業
工業科
(全)5学級
(定)1学級

米沢商業
商業科
3学級

置賜農業
農業科
3学級

南陽
普通科
4学級

高畠
総合学科
3学級

合計28学級（1120名）

どのような人材育成、教育内容(活動)が望ましいか

(1) 子ども達に身に付けさせるべき資質・能力

- ・変化する社会に柔軟に対応して、様々なことに挑戦しながら、たくましく生き抜く力
- ・基礎的な知識・技能の習得に加え、思考力、判断力、表現力、学びに向かう意欲
- ・多様性を生かして協働する力、主体的に考え積極的に行動する力、コミュニケーション力
- ・国際化や人口減少等についての課題意識と地域社会・産業の変化に対する先見性と情報収集力
- ・職業に関する体験的な学びにより、望ましい勤労観、職業観や社会に出て自立する力

(2) 地域社会・地域産業にとって育成すべき人材

- ・付加価値のあるものづくりや農業経営等の地域産業の発展を担う人材
- ・郷土を愛し、地域の将来を担う気概をもち、地域社会の発展に貢献できる人材

(3) 求められる教育内容（活動）

- ・外部研究機関等と連携した取組みにより、探究型学習の充実、探究マインドの醸成
- ・普通科でのキャリア教育の充実、専門学科での幅広く柔軟な進路選択を可能とする工夫
- ・郷土愛を育み若者定着を促す、学校、企業、地域が連携した教育体制づくり
- ・様々な課題を持つ生徒や、特別な支援を要する生徒など、多様な生徒の学習ニーズへの対応

どのような再編整備が望ましいか

(1) 望ましい学校規模の確保

- ・生徒の多様な進路希望に対応した充実した教育課程の編成が可能
- ・教員集団が組織的に機能することで、学校全体の教育力の向上が可能
- ・様々な部活動の設置、生徒会活動や学校行事の充実が可能
- ・多様な人間関係の中で互いに切磋琢磨できる環境を整えることが可能

(2) 望まれる学校のタイプ

※ 中学校卒業生数の減少とともに、設置できる望ましい規模の学校の数に限られるため、下記のタイプ別の学校が、同時に全て設置されることは想定していない。どの時期に、どのタイプの学校をどのように配置すべきかについて、現実的な条件も踏まえて、今後検討されることを望む。

① 普通科タイプ

- ◇ 探究型学習を充実させ高い学力を育成する普通科高校（探究科の併設が望ましい）
- ◇ 進学から就職まで多様な進路希望に対応する普通科高校

② 専門学科タイプ

- ◇ ものづくりについて幅広く学べる単科型の専門高校
- ◇ 複数の専門学科を併設した複合型の専門高校（後述の総合選択制を採用することが望ましい）

③ 総合タイプ

- ◇ 複数学科を併設し学科の枠を越えた学習もできる総合選択制高校
- ◇ 普通科目と専門科目を幅広く選択して学べる総合学科高校

(3) 小規模校の在り方

- ・将来の統合の組み合わせを特定する必要がある「キャンパス制」の導入は当地区では困難。
- ・教員の出張授業、合同の学校行事、部活動の合同練習など、個々の連携・交流の内容に応じて条件が整う相手校を選んで実施できるより柔軟な取組みが望ましい。

(4) 定時制の在り方

- ・教育の幅を広げるために、昼の時間帯の定時制への移行を前向きに検討することが望まれる。
- ・工業科から総合学科などへの変更を望む意見もある。
- ・昼間定時制とする場合は、全日制との校舎の共用か独立校舎の確保か検討が必要。

(5) 中高一貫教育

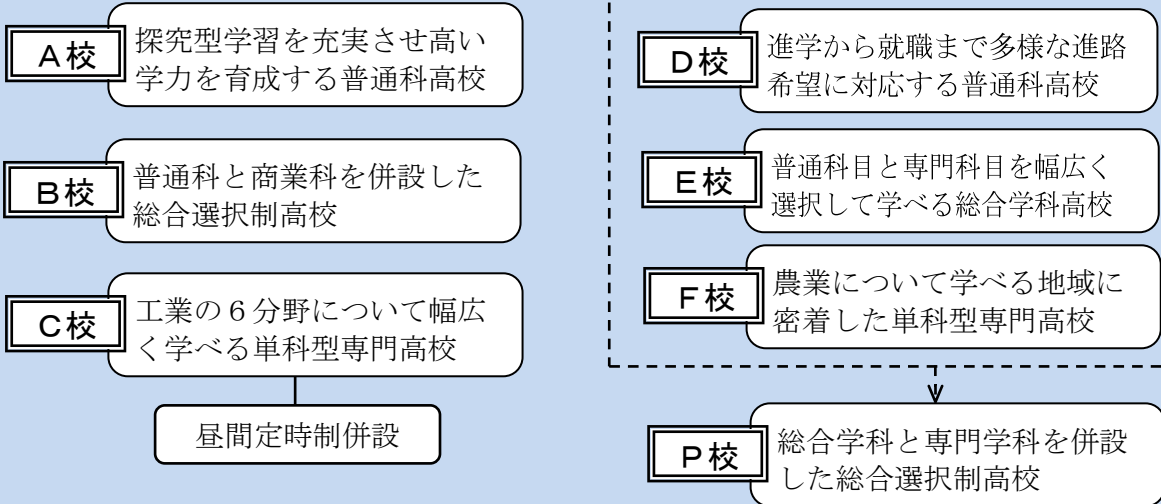
- ・中等教育のもう一つの選択肢として、併設型の中高一貫校の設置を望む声があるため、継続的な検討が必要。

どのような高校配置が望ましいか

※ 平成 36 年度（2024 年度）を目処とする【中期的な視点】と、それ以降の【長期的な視点】の 2 段階に分けて示している。中期的な高校配置案については 2 つの例を提示する。また、それぞれに続く長期的な高校配置案として、現時点で望ましいと思われる案も示しているが、今後の状況の変化等も踏まえて、他の可能性も含めて継続的に検討が進められることを望む。

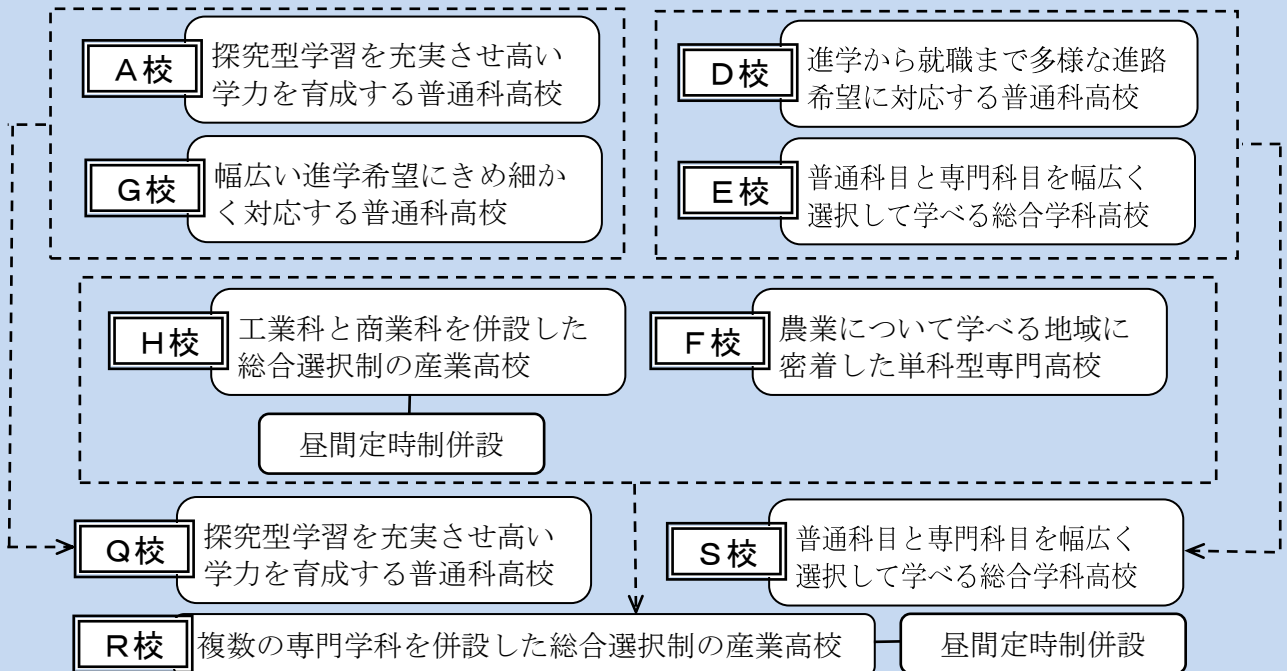
例 1

【中期的】米沢市内に A 校、B 校、C 校を、米沢市外に D 校、E 校、F 校を配置する。
【長期的】A 校、B 校、C 校、P 校を配置する。



例 2

【中期的】米沢市内に A 校、G 校、H 校を、米沢市外に D 校、E 校、F 校を配置する。
【長期的】Q 校、R 校、S 校を配置する。



お問い合わせ 山形県教育庁高校教育課 高校改革推進室
〒990-8570 山形市松波二丁目 8 番 1 号 TEL 023(630)2493 FAX 023(630)2774

※ 東南置賜地区の県立高校の再編整備に係る情報については、山形県のホームページ <http://www.pref.yamagata.jp/ou/kyoiku/700013/> でご覧になれます。